

令和元年度 依存症民間団体支援事業報告

団体名 NPO 法人全国薬物依存症者家族会連合会

事業名 「家族にとっての薬物依存って」漫画本作成事業

<活動内容の概要>

2000年に精神保健福祉法の改正により薬物依存症者は精神障害者の一人と明確に位置付けられ、2013年に作られた刑の一部執行猶予制度や2016年に施行された再犯防止推進法でも、薬物依存症者を罰するだけでなく病気として治療の対象としていこうという方向が取られ始めています。

しかし、地域社会にあるのは「ダメ、ゼッタイ!」の強いイメージです。「薬物依存症は病気」ということが社会的な理解にならないと、依存症当事者はもちろん、家族が孤立し問題の解決を遅らせてしまいます。薬物依存症は回復可能な病気であり、家族は回復のためのキーパーソンであることを伝えていくために、多くの人に読んでもらえるツールとして漫画本を作成しました。

当連合会理事・当連合会会員・専門家の6名で検討委員会を作り原案を作成、近藤京子氏（一般社団法人オンブレ・ジャパン代表理事）の編集により原稿を完成、漫画家・青木 朋氏に原稿を依頼し、信田さよ子氏（原宿カウンセリングセンター）の監修を受け、印刷専門業者に製本化を依頼しました。

成果物は販売用ではなく、宣伝用配布物として、各家族会や精神保健福祉センター・保健所等関係機関に送付し配布等依頼すると共に、今後各種イベント等で配布する予定です。

漫画本の仕様

本の大きさ—A 5 版、本文ページ数—32ページ、本文—モノクロ、カバーなし
表紙—フルカラー、発行部数—16,000 部

<事業の成果>

漫画本なので、いろいろな場所に気軽に置いてもらえ、今まで依存症問題に関心がなかった人や若年層の薬物依存症への偏見や差別感を取り除き、正しい理解を広げていくことができます。また、薬物依存で苦しんでいる者やその家族・知人が相談窓口等を知ることができ、支援の場にたどりつくきっかけをつかむことができます。

漫画本完成後、家族会・保護観察所・DARC・MAC・作業所・精神保健福祉センター・行政機関・その他含め 708 団体に 9,793 冊を送付、その後、法務省矯正局

からの要請で、全国180カ所の刑務所・少年院・少年鑑別所待合室に置いてもらうなど発送後24団体から「もっと送ってほしい」との要望があり、既に13,018冊を活用しています。

発送時に団体宛にアンケートをお願いしましたが、現時点（2020.2.25）80通の返信があり、「漫画の内容がわかりやすかった」80人、「薬物問題正しく伝えられている」78人、「活用しやすい」77人の回答があり、「薬物問題を知った家族の苦しみや辛さがすごく感じられた。本人の生き辛さも感じられ、非常にわかりやすかった」「お困りの方を相談につなげやすい本だと思った」「初めて相談するときは勇気があるので、この漫画本は一般の人の目につく場所に置いてもらえるとよい」「セミナーで配布したい」「法律事務所や病院などに置いてもらうとよい。どこでも相談できずに困っている家族の方の手に届くようにしてほしい」など多くの声が寄せられ大変好評で、薬物依存症についての理解を大きく広げる良いツールとなりました。

「もしもあなたの…」漫画本 第1次分発送先				
	1次分発送先	送付個所数	送付冊数	総発送冊数
1	家族会	21	5～200	2,370
2	保護観察所	67	20	1,340
3	DARC・MAC・作業所・デイケアセンター等	91	5～200	2,635
4	精神保健福祉センター	69	40	2,760
5	行政機関	57	5	285
6	その他関係者	403	1	403
	合計	708		9,793

追加発注先			
	追加注文 団体	団体数	追加発送冊数
1	保護観察所	8	575
2	全国180カ所の刑務所・少年院・少年鑑別所	1	1,120
3	家族会	3	360
4	ダルク	3	360
5	精神保健福祉センター	1	400
6	社会福祉センター	1	80
7	病院	2	120
8	支援団体	3	30
9	修道院	1	100
10	啓発イベント	1	80
	合計	24	3,225

漫画本「もしあなたの大切な人が 薬物を使ったら・・・」

表表紙



裏表紙



団体ホームページへのリンク

<http://www.yakkaren.com/>

NP0 法人全国薬物依存症者家族会連合会

